

# 「学ぶ意欲を持ち、追究していく生徒の育成」 ～「深い学び」の創造をめざして～

研究部長 上野 佳代

## 1. はじめに

### 1. 1 これまでの取り組み

#### 【平成20年～22年】

研究主題を「課題意識を高め、自らの問いを深める教育課程～学び合いを通して見つける価値ある学びとは～」と設定、成果として生徒一人ひとりの課題意識を高め、次のような学習効果が得られた。

- \* 「学び合い」を通して、論理的思考力や抽象的思考力を育成することができる。
- \* 「学び合い」を通して、表現活動につながる力を育成することができる。
- \* 「学び合い」を通して、授業の内容に基づいた学習の意義を理解させることができる。

#### 【平成24年～26年】

研究主題を「思考力・判断力・表現力等」を育成するための指導とその評価～学び合いにおけるキーパーソンを見出し、活かす指導法の追究～」と設定した。学び合いの場における生徒一人ひとりの活動には「引っ張り役の他にも多様なはたらきがある」と考え、成果として次のことを報告した。

- \* キーパーソンを見出すために多様な生徒の反応とその裏にある思考を推測することで、集団全体の思考を高める指導が生れる。
- \* キーパーソンが活躍する場を設定することで、生徒の達成感を深め、学び合いを促進する雰囲気が生れ、授業が活性化する。
- \* キーパーソンが活躍する場を設定することで、生徒が思考や発想に自信を持つことができ、そこから生まれる新しい視点は「思考力・判断力・表現力等」を向上させるきっかけとなる。

## 2. 平成27年度（1年次）の取り組み

### 2. 1 研究で求める生徒像

3か年計画の初年度である平成27年度では、新学習指導要領もほぼ定着している状況を踏まえ、本校の生徒にはどのような学びが必要かを考えることからスタートした。生徒の実態を全教員であげ、分析および共通理解を図り、学校教育目標・学校運営方針・本校の使命を基盤にして本校で求める生徒像を検討した。

本校の生徒は、おおかた授業をはじめとする学校生活に真面目に取り組んでいる。しかしその内面では、授業内容やその深まりに興味や関心を持ち、さらには自発的に取り組んでいるとは言い難いところがあるのではないかと思われた。また、学校という集団ならではの学びを大切に、その質を深めていくことができているかといった面においても、十分に満足できる状況ではないと感じられた。そこで、そこから、研究で求める生徒像を以下のように設定した。

#### 研究で求める生徒像

- ・ 学ぶことに面白さを感じ、自発的に課題を追究する生徒
- ・ 自分とは異なる他者との関わりの中で、学びを深めていくことができる生徒
- ・ 自己実現を大切にして、将来へ希望や夢を持つことができる生徒

## 2. 2 学ぶ意欲

「研究で求める生徒像」では、学びを広げ創造的に考えていく課題追求力を持ち、仲間との関わり合いから協働的な学びを実現するような学び合いを大切にする生徒を示している。その姿の実現には、新たな価値を見出したり、学ぶ意味を追究したりするといった、学ぶ面白さを見つけていく意欲が必然であると考え、研究主題を「学ぶ意欲を持ち、追究していく生徒の育成」と設定した。

しかし、「意欲」という言葉は、教育現場では日常的に使用されているにもかかわらず、その概念はあいまいである。一人ひとりの具体的な学びの在り方や方向性に依存して生じる質的な現象である「意欲」を取り上げ、議論や検討を進めるためには「意欲」を見とるための基準を設定する必要性が生じた。

そこで教育研究協議会では、各教科での特性を尊重し活かしながらも、研究主題に対して教科の枠を超えて広く検討し合うことができるよう、共通の3つの視点を設定し、教科ごとにそれぞれの視点をもとにした授業づくりを行い、参観者と協議を行った。

### <提案の視点>

- ①教師の教材研究の充実（意欲を高めるために必要な指導・支援、「しかけ」や「場の調整」の工夫）
- ②教師の個・集団への評価活動（期待する瞬間の把握・判断）
- ③生徒の評価活動（自己評価・相互評価・学び合い等）

### <各教科の成果と課題>

◇教師の教材研究の充実（意欲を高めるために必要な指導・支援、「しかけ」や「場の調整」の工夫）

#### 国語科

比べ読みや近現代の表現との比較といった「しかけ・場」を設定したが、教材・テーマに対しての切実さ、現代文と古文の違い等によって、教材への寄り添い方・考えの深まりに個人差が生まれた。学び合いの方法や形態、それぞれの生徒に課す役割の検討、学び合いの単元における実践頻度について、実態に合ったものや具体的な方策を検討・実践に繋げる必要があるという課題があげられた。

#### 社会科

教師の教材研究の充実が、現地調査の重要性の再確認とともに教師の問いの質や生徒の思考の深まりにもつながるという成果をあげた。学ぶ意欲を持ち、追究していく生徒の育成に必要なこととして、生徒側から授業をつくること、生徒が追究したいことを単元構想や授業内容に取り入れていくこと、生徒の活動を支える指導案を評価と絡めながら研究する必要性があることという課題があげられた。

#### 理科

授業を通して、身の回りのことが科学的な視点で見えるようになる「科学の目」を育てることが科学そのものへの意欲につながるサイクルと想定し、「教師の教材研究の充実」と「学び合い」の必要性や価値について明らかにした。「本校生徒の学習動機の特徴（傾向）」を調査・分析し、最終的には、「学ぶ意欲」をどのように見とるか（評価するか）を課題としてあげられた。

◇教師の個・集団への評価活動（期待する瞬間の把握・判断）

#### 数学科

学ぶ過程を重視するという考えに立ち、子どもが課題に当面し、構造化しようとする試行錯誤や構造を変容させる過程を、子ども自身の活動による設定を試みた。適切な授業の舵取りのための評価活動で、生徒の意欲が高まるだけでなく数学がより意味のあるものになっていくことを実証した。一方、課題として、意図した練り上げにまで到達できなかった点が挙げられた。